

リモニウム系ハイブリッドスターチスにおける抽台茎の随時摘芯による開花調節

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 花き—スターチス—品種・生育調節
分類コード 05-15-01160000
- 2 担当者 江川孝二・室谷朝子・佐藤正武
- 3 要 旨

7月に集中する開花期を抑制し分散させる目的で、抽台茎を随時に摘心処理する方法が開花期や切り花品質に及ぼす影響について検討した。

(1) 処理方法は抽台茎が15cmに達した時点で茎の基部で切除し、5月末および6月末のそれぞれの期間まで処理を繰り返した。

(2) 山間地での収穫期は、5月末まで処理は無処理より収穫期の最大ピークが10～15日遅延した。また6月末まで処理では収穫ピークは分散され小さな山型で推移した。

(3) 山間地での株当たり収量は、‘ブルーファンタジア100’では無処理と5月末まで処理との差がなく約5本、6月末まで処理では約2本と減少した。また‘ムーンライト’では無処理で約7本、5月末まで処理で約6本、6月末まで処理で約4本と収穫量は減少した。

(4) 平坦地での収穫期は、無処理、5月末まで処理、6月末まで処理の収穫量ピークがそれぞれ約30日間隔で分散された。

(5) 平坦地での株当たり収量は、‘ブルーファンタジア100’の5月末まで処理と無処理の差がなく約10本、6月末まで処理では約5本であった。また‘ムーンライト’では無処理が13本、5月末まで処理が10本、6月30日区が9本であった。

(6) 以上のことから、立茎の随時摘芯による開花調節は、品種や処理時期によっては収量をやや低下させるが7月に集中する開花期を遅延分散できることがわかった。よって摘芯の処理期間と規模を組み合わせることで計画出荷が可能になると考えられる。なお5月末までの摘芯処理は品質向上も期待できる。

- 4 その他の資料など